

【出題形式・方針】

全問題をマーク式で出題しており、設問形式には空所補充と下線部に関する問いを中心に据えている。2～3 か所の空欄に語句を入れる組み合わせ問題を取り入れるほか、語句選択、4文の正誤判定、2文の正誤組み合わせ、年代整序など、設問形式の幅を広げ、受験生の多面的な理解力を測る構成としている。

年代感覚の定着を重視し、出来事の時期や王朝の継続期間、年号そのものに関する問題を毎回取り入れている。地域構成については、西洋史と東洋史をそれぞれ1題ずつ設定することを基本とし、西洋史ではヨーロッパ・アメリカ合衆国を中心にしつつ、オセアニアやラテンアメリカにも視野を広げている。東洋史では中国を中心に、朝鮮・インド・東南アジア・イスラーム世界などにも広く目を向けている。

対象とする時代は先史から現代まで世界史の全時代であり、幅広い知識と理解力を求めている。分野としては政治史を中心に据えつつ、文化史も重要な領域と捉えている。